

●里山展始まる

3月2日から里山展が京田辺市中央図書館「ギャラリーかなび」で7日(日)までの期間始まりしました。今回は源氏物語に登場する草花50点余を中心に展示をしています。草花の写真は植物写真家の近藤和夫さんの作品で、源氏物語の中で草花が登場してくる部分も引用展示しています。これだけボリュームのある展示会はそんなに開けないと思われます。是非ともこのチャンスにお越しください。またこのほかにも里山農園で子供たちの書き初めを初めて開催したその作品もご覧になっていただきたいものです。日頃農園で元気に走り回っている子供たちの元気を受け止めていただきたいと思います。そのほか木津川で自然に生育していましたが2007年以後発見されなくなった国の天然記念物の魚イタセンパラですが貝に卵を産み付けてワンドの水位が低くなる冬を越すといわれています。この復元の取り組みを始めていますので、その生態の説明も行っています。図書館にお立ちよりの折にはご覧になって下さい。



●炭焼き 窯の温度上昇せず

これまでには経験したことがない状況が発生しました。事務局会議で原因を深めましたが、予期せぬ事態になりました。3月13日に窯開きを予定して原因を考えることになりました。現在考えられるのは木酢液が殆ど採取できなかったことから早く燃え尽きたのだらうと考えられます。したがって残ったのは燃えカスの灰だけの可能性が高いということです。

●次年度の活動計画にかかわって始めてみたい事業の提案をお願いします

間もなく2021年度の活動が始まります。いつにもなく新しい会員様を多くお迎えしています。きっと何かを期待されて入会をして来られたのだと思います。その思いを4月20日前後に予定している通常総会に置いて決定される活動計画に反映させなくては取組みになってきませんので是非ともご意見を事務局に届けてくださるようお願いいたします。様式は決めていませんので、メモ書きで結構でございます。ヒントとして里山の会の定番らしき計画を提起しておきます。

やましろ里山の会定番活動

4月 親子花見乗船体験 4/3 春の野草を食する会 4/10 通常総会 4/ 会誌50号発行 4/
 5月 連休4月29~5月5日 イヌナズナ 木津川生き物調べ 5/8 レンリソウ観察会 5/22
 6月 ササユリ開花 6/2 ホタルの集い里山音楽会 6/12 オオムラサキ観察会 6/20 夏の昆虫観察会 6/26 植樹祭 6/30 7月 農園一斉草刈り 7/24
 8月 魚とり 8/1 5 7 11 第2回理事会 8/27 9月 里山講演会 9/4 竹蛇籠製作講習会 9/5
 10月 中聖牛組立 会誌51号発行 11月 京田辺市市民文化祭 12月 中聖牛設置 ハイキングコース年末清掃 餅つきしめ縄づくり 1月 七草摘み七草がゆ 黒豆みそづくり
 2月 里山展 炭焼き体験 3月 自然と環境講演会

このほかに財源確保が大きな目的であり自然を大切にするスローガンの具体化のための活動として、里山農園活動(毎週火曜日、土曜日) 木津川植生調査管理業務作業(40か所、160000㎡、年間2回の草刈り、希少植物の生育調査) ヤマトサンショウウオの観察作業 中聖牛設置業務、竹蛇籠製作業務など多くの業務作業があります

●栃木県の山火事から学ぶもの

最近のニュースで驚いたことは、何日も燃え続けた山火事です。そして人家に火が迫ってきて。避難しなくてはならない事態になったことです。アメリカの山火事はよく報道しているので、まあそういうことかと受け止めていました。がしかしこの日本で起きることは予想していませんでした。原因はマスコミが伝えるところではタバコの火ではないかとのこと、雨が降らず、強風が吹き乾燥が続いているという条件が重なったとのことだそうで、大変驚いた出来事でした。里山の会では近頃農園で火を使うことが多くなってきています。コンロの周りなどは枯草や引火しやすいものもたくさんありますので、特に注意して火を使う場合はコンロの周囲を整理整頓して引火し易い物をかたづけるなどを行ってください。里山農園では以前山火事を出したという事件があったということを何度も聞かされました。この際栃木県の山火事を他山の石として生かしていきましょう。

先日地域説明会でお話を頂きました戸田裕子さんの青年海外支援 13 年のネパールでの貴重な経験をお伝えします。

青年海外協力隊での活躍報告 戸田裕子 「ネパール暮らしお話会でお話させていただいたこと」

- ・青年海外協力隊でネパールの女性の自立支援活動をしたことをきっかけに 13 年間ネパールの女性・山岳民族の支援活動に携わった。
- ・ネパールは東西に延びる世界最高峰の 8,000 メートル級の山岳地帯があるため開発が著しく遅れていたが、現在急激に発展をしているインドと中国にはさまれた位置にあるため現在首都や主要市街は急激な発展が始まっている。
- ・しかし国土の約 7 割の山岳地帯は電気もガスもなく、戸籍の手続きも数年前にようやく始まったばかりで首都の生活と違い、現金をほとんど持たない暮らしが今もあり首都とかけ離れた暮らしぶりとなっている。昨今、急な山の斜面での苦勞の多い農耕生活を離れ若い世代（特に男性）は山里や首都の方に山間部から出稼ぎに行くようになり、山では女性が残され田畑の耕作や家畜、子供やお年寄りのお世話や家事にと重労働が重なっている。
- ・また生活燃料がないため集落の周辺から森林を伐採していくため、薪用のマキを取るのに片道 2 時間半ほど歩くようになっていたため、山岳部に残った男性に植林の技術を伝え、村民全員で植林活動をし、植樹 100 万本を達成した。
- ・また山奥で様々な重労働を押し付けられている女性には山岳部に生息するヒマラヤイラクサから繊維を取り出し、糸を紡ぐ技術を伝えた。この地帯に原始に残る織りの技術を基本に女性に織りの技術を伝え、工場の建設や製品の販路の構築などの支援を続けると、このプロジェクトは女性たちの心からの望みと合致したのか、売り上げも順調に上がり、今では女性たちは自身で織った生地から得たお金で自立運営の継続に成功した。活動当初は、ほとんど自分から何も話さなかった女性たちだったが、今では子供さんを良い学校に出したり、必要な診療を受けられたり、一番頑張った方は自身のお家を建てるとお金を得てできるようになったこと、また、これまで何も価値がないと思っていた自分自身の価値が家族の中で高まったことに気づき、目を輝かせて話してくれるようになっていった。
- ・13 年にわたるネパールでの活動を通して、途中見舞われたネパール大地震では崩壊した家屋が 4 日後に村民の共同作業により復興されるのを目の当たりにし、支援活動をしながら、山岳民族の逞しさや内側から放たれる輝きや心の豊かさ、懐の深さに日本には失われた、取り戻すべき何か大切なものがあるのを深く感じていた。
- ・ネパールが今目指そうとしている開発、経済発展とは裏腹に、日本では昔懐かしい山村の暮らしが見直されている。開発と破壊を一周し終わった日本の今に立たされている自分はネパールの山岳民族の暮らしに日本の「懐かしい未来」を見るような心持ちでこの活動を終えた。現在、帰国し村離れの進んでいる木津川市加茂町山間部の空き家だった古民家を授かり再生している。この地に残された素晴らしい歴史や山や川、自然と共に歩み続けてきた日本の山里の文化を改めて学びなおし、母国日本の古き良き麗しき響きを自身も感じ楽しみ、そして後世に残したいと心から思っている。